



会社名 J.フロント リテイリング株式会社
 コード番号 3086
 代表者名 代表取締役社長 山本 良一
 お問合せ先 経営戦略統括部
 グループ広報・IR担当
 TEL 03-6895-0178

2014年12月度 J.フロント リテイリング 連結営業報告

1. セグメント別売上高（対前年増減率：％）

	12月度	9～12月度累計
百貨店事業	▲ 1.4	▲ 1.1
パルコ事業	1.2	1.9
卸売事業	7.0	▲ 3.9
クレジット事業	▲ 2.1	2.9
その他事業	6.3	4.2
連結合計	0.3	▲ 0.2

2. 売上高概況

1) 百貨店事業

- ・12月度の百貨店事業の売上高は、婦人・紳士ともにウールコート、マフラー、手袋などが活発に動いたほか、訪日外国人売上の好調により、時計や化粧品なども大幅に売上を伸ばしたものの、日曜日が対前年▲1日減であったことや、一部店舗で積雪によるマイナス影響を受けたことなどにより、大丸松坂屋百貨店合計では対前年▲1.0%減、関係百貨店を含めた百貨店事業合計では同▲1.4%減となった。

2) パルコ事業

- ・日曜日が対前年▲1日減であったことや、一部店舗で積雪による影響などがあったものの、防寒アイテムのニット、マフラーが月を通してよく動いた。また、月後半はクリスマス需要が直前に集中し盛況であったことに、年末休暇の長期化による来店客数の増加や、一部ショップにおいて開催したプレセールの好調なども加わり、前年を上回る売上で推移したことから、パルコ事業全体では対前年1.2%増となった。

3) その他

- ・卸売事業の大丸興業は、電子デバイスのほか、食品などが好調であったことから、対前年7.0%増となった。
- ・クレジット事業のJFRカードは、外部加盟店手数料収入が増加したものの、グループ内取扱手数料率の見直しにより、対前年▲2.1%減となった。
- ・その他事業は、人材派遣業のディンプルが好調であったことや、今期よりフォーレストが加わったことにより、対前年6.3%増となった。

お問合せ先	J.フロント リテイリング株式会社	グループ広報・IR担当
	TEL	03-6895-0178
	FAX	03-6674-7565

2014年12月度 百貨店事業 営業報告

1. 売上高および入店客数（対前年増減率：％）

	12月度		9～12月度累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	▲5.6	▲6.7	▲1.3	▲7.4
大丸 梅田店	8.4	▲15.2	4.3	▲15.8
大丸 東京店	3.5	▲3.6	2.8	▲6.4
大丸 浦和パルコ店	▲6.7	▲3.1	▲6.9	▲3.9
大丸 京都店	0.9	▲9.8	1.9	▲7.6
大丸 山科店	▲5.0	▲7.4	▲6.2	▲7.2
大丸 神戸店	▲2.7	▲10.1	▲0.9	▲9.7
大丸 須磨店	▲2.8	▲10.1	▲5.3	▲13.6
大丸 芦屋店	▲3.4	▲9.3	▲4.5	▲9.6
大丸 札幌店	3.3	▲9.8	2.4	▲12.4
松坂屋 名古屋店	1.1	▲6.7	0.5	▲5.6
松坂屋 上野店	▲15.1	▲24.9	▲17.1	▲28.4
松坂屋 静岡店	▲2.5	▲9.2	▲3.6	▲3.8
松坂屋 高槻店	▲5.9	▲18.8	▲5.4	▲20.0
松坂屋 豊田店	▲3.0	▲4.5	▲3.5	▲4.0
大丸松坂屋百貨店合計	▲1.0	▲10.0	▲0.8	▲10.8
博多大丸	▲4.0	▲4.6	▲2.9	▲1.9
下関大丸	▲6.1	▲1.5	▲3.6	▲2.4
高知大丸	▲3.8	▲2.3	▲4.6	▲0.4
百貨店事業合計	▲1.4	▲9.4	▲1.1	▲10.0

2. 大丸松坂屋百貨店 商品別売上高（対前年増減率：％）

	12月度	9～12月度累計
紳士服・洋品	1.8	2.6
婦人服・洋品	▲1.1	0.1
子供服・洋品	▲5.0	▲1.1
その他の衣料品	▲10.0	▲11.6
衣料品計	▲1.2	▲0.1
身回品	▲4.9	▲5.1
化粧品	9.6	8.8
美術・宝飾・貴金属	14.9	3.9
その他雑貨	34.4	31.1
雑貨計	14.4	8.2
家具	▲23.8	▲17.3
家電	▲0.3	2.5
その他の家庭用品	▲11.6	▲6.6
家庭用品計	▲13.7	▲8.7
生鮮	▲3.5	▲2.6
菓子	0.4	▲1.4
惣菜	2.2	2.4
その他食料品	▲6.0	▲5.5
食料品計	▲1.9	▲1.7
食堂・喫茶	▲4.6	▲4.7
サービス	▲32.1	▲20.5
その他	▲4.9	▲4.5
合計	▲1.0	▲0.8

3. 売上高概況

婦人服・洋品は、ラグジュアリーブランドが4か月連続で前年実績を上回ったほか、衣料品ではコート、マフラーなどの動きがよかったものの、ミセスゾーンにおいてニットなどが不調であった。紳士服・洋品は、コート、ブルゾン、セーターなど冬物衣料が活発に動いた。身回品は、アクセサリが好調であったものの、婦人靴ではロングブーツの動きが鈍かった。雑貨は、時計が3割増と売上を伸ばしたほか、化粧品も好調を持続した。食品は、上野店南館建替え工事による売場面積減などにより、マイナスとなった。